

阿蘇山 2015 年 9 月 14 日噴火の火口近傍堆積物の分布

- ・火砕流堆積物は中岳第一火口の全方位に分布しており、南東～南、西～北西、北東～東方向に張り出した分布をしている。火砕流は中岳第一火口中心から約 600m～1200m 流走したと考えられる。

阿蘇山の中岳第 1 火口近傍の噴出物分布図を、斜め航空写真や噴火ビデオ映像等を元に作成した。斜め航空写真は、国交省やアジア航測が 9 月 14 日に撮影したもの、噴火映像は各 TV の報道映像を使用した。

9 月 14 日 9 時 43 分の噴火時の映像では、噴煙が側方に広がる現象が観察され、福岡管区气象台による火山活動解説資料でも、火口近傍に高温の熱画像領域が見られることから、火砕流（火砕サージ）が発生したと考えられる。堆積物は、噴火時の風向（南東風）にかかわらず火口から全方位に分布すること、尾根等を乗り越えて分布すること、部分的に斜面に乗り上げていることなどから、噴火時の映像と合わせて火砕流（火砕サージ）の堆積物と考えられる。

今回の暫定分布図では、堆積物の色調から(1)白色～灰色の領域と(2)その周辺部の暗灰色の領域に区分した(図)。(1)の領域は、熱画像の高温領域と一致することから、比較的厚い堆積物の分布域と考えられる。(2)の領域は、(1)の領域の外側を取り巻く比較的堆積物が薄いと考えられる領域である。なお、熊本大学の報告によれば、堆積物の厚さは(1)の領域にある第一火口南西側縁や第二火口南側縁で 2～6 cm 程度である。

堆積物の分布から、火砕流の到達距離は、南東方向へは約 1.2km、南方向へは、約 800m 流、西南西方向には約 700m、東方向には約 800m、北東方向には約 800m である。北西方向は、写真が噴煙で覆われておりやや不明瞭であるが、約 900m 流走している可能性がある。

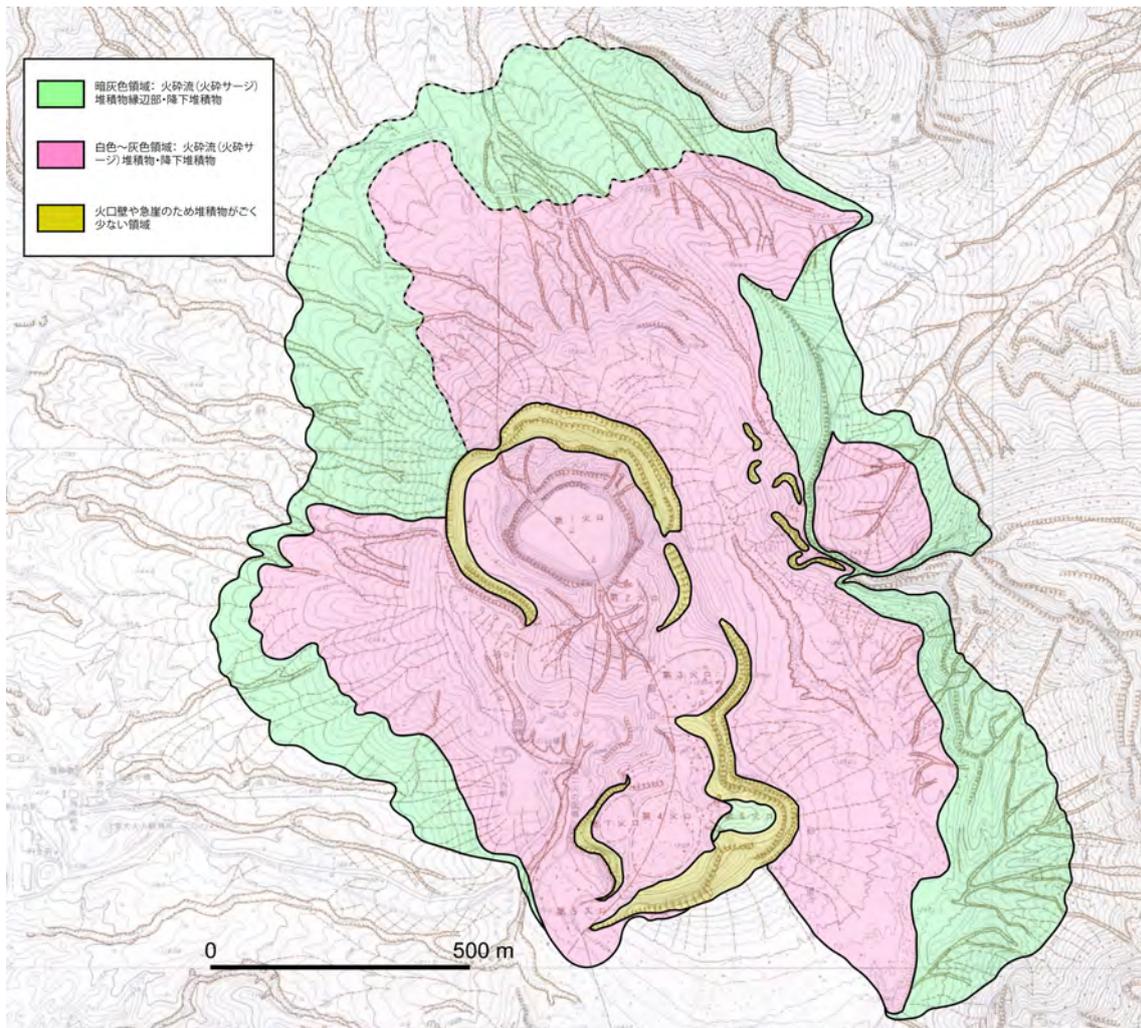


図. 阿蘇山 2015 年 9 月 14 日噴火の火口近傍堆積物の分布図 (暫定版). 地形図は, 国土地理院の 5000 分の 1 火山基本図 (阿蘇山) を使用した.